



安心とつながるおの町川の手をまめびと

# 防災まちづくり瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

平成28年1月1日

[HP]http://hitokotokai.com

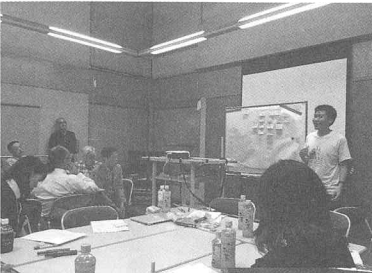
いちてらこととい  
一寺言問／防災まちづくり瓦版  
編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局  
発行／一寺言問を防災のまちにする会  
代表 青木 隆雄  
連絡先／墨田区都市整備部都市整備課  
〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel(5608)6261

## 当日までの裏話

今回は新たな団体を迎えた上でカエルキャラバンをより良く、かつ子どもたちにとってさらに楽しくするために八月から一ヶ月ごとに計三回のミーティングを行いました。  
第一回のミーティングでは、「こんなプログラム出来たら良いな」というアイデア出し、あるいは「現在のアイディアをより良くするための+α」の意見を出し合いました。

そして第二回、第三回へと回を重ねて行く中で前回出た案を各団体・個人の特徴を生かした企画として練り直し、具体化に向けて話あっていき、今回のカエルキャラバンは成り立ったのです。

ちなみに当日行わなかったけれどユニークなプログラム案として、火事を知らせる大声の出し方、非常食を使ったワンポイント料理、暗闇での危険探知体験などの案も出していました。



(右) 各々面白いと思うプログラム案を出し合う様子。  
(上) 各団体ごとに、それぞれの強みや特徴を活かした案を持ち寄りました。

# 子どもとゆっぴょに 防災体験ワークショップ イザ!カエルキャラバン in 寺島 2015 を開催しました!!

二〇一五年十一月十四日(土)に今年も子どもたちと一緒に地域防災を学ぶイベント『イザ!カエルキャラバン!』寺島』が開催されました。この地域でカエルキャラバンは二〇〇九年以降毎年行われてきており、今回で七回目の開催となりました。

スタッフとして、一言会の理事メンバーの方以外にも、毎年手伝って下さっている墨田川高校の生徒さん、墨田区少年団体連合会、ポーンスカウト墨田9団、東京工業大学の学生、NPO法人プラスアーツといった方々に協力頂きました。


また今回は一言会が三十周年ということもあり、それに関連してカエルキャラバンのプログラムもさらに発展させようということで、今年は新たに東京土建墨田支部、むこうじま高齢者みまもり相談室、むこうじま高齢者支援総合センター、ふじのきさん家など、近隣の防災や建築・福祉に関わる専門団体の方々にも一緒にプログラムを考えるところから協力頂きました。

当日は天候に恵まれず、雨の中での開催となってしまいました。また、それでもイベント開始当初からたくさんの方に来て頂き、最終的には二五〇人近くの参加児童数となりました。

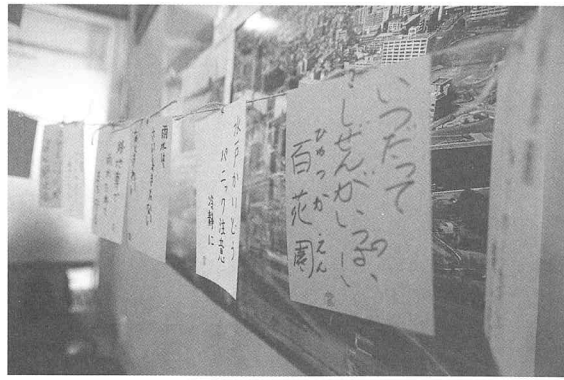


●当日おもちゃをたくさん持ってきて、各自思い思いの好きなおもちゃをいっしょけんめい探していました。

◆『イザ!カエルキャラバン!』とは◆  
阪神・淡路大震災の被災者の方々の体験を元に、いざ!という時に必要となる知識や情報を楽しみながら学習できる、体験型の防災訓練プログラムです。  
このプログラムは、阪神・淡路大震災の教訓を風化させず、次世代に繋げていくために開発され、現在は神戸市内の小学校で防災教育の一環として取り入れられています。

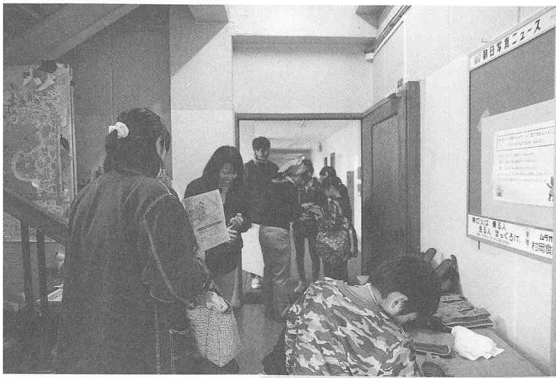


**イザ!  
カエルキャラバン!**  
MESSAGE FROM 1995 AT KOBE



●標語づくりではユニークな標語も…！

●学校の階段を使って高齢者体験は普段出来ない体験で子どもたちは始終楽しそうでした。



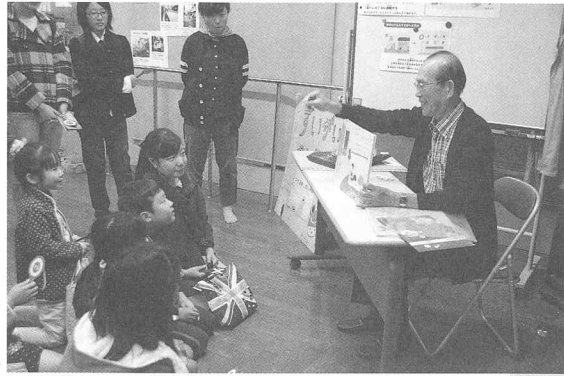
●防災キャップづくりの場所ではズボンを使ったリックの作り方も教えていました。



◇地震のときの一連の流れを知る！◇



●まず家具転倒をどう防ぐのか模型を使って教わります。



●水害紙しばいの間違い探しクイズは楽しくて大盛り上がりでした。



●持ち出し品、意外と覚えるのムズカシイ？

# 当日の様子

こういったように新しいプログラムや恒例の内容に対して、参加してくれた子どもたちはそれぞれのプログラムに真剣かつ楽しんで取り組んでいるようでした。時に内容によっては友達やお父さん・お母さん、兄弟やおじいちゃん・おばあちゃんと協力しながらがんばる微笑ましい一面も見ることが出来ました。

他にも「雨水クイズ」、「水害紙しばい」、「応急手当」、「ロープワーク」、「備蓄品・持ち出し品の中身当てクイズ」といった恒例のプログラムは今年も行われ好評でした。なお当日はあいにくの雨となってしまうため、予定していた起震車試乗は中止に…。またあるき形式のクイズラリーもクイズを体育館内に張り出して行う形になりました。

「洋服でたんかづくり」は東京土建の協力と案によって本格的な設営のもとで行う形になり、体験としてよりリアルで楽しいものとなりました。

今回は例年ない新しい企画として「お年寄り体験・水害クイズ」、「防災キャップづくり」、「きみも地域博士！一言標語づくり」などがありました。お年寄り体験はむこうじま高齢者みまもり相談室とむこうじま高齢者支援総合センターによる協力で、防災キャップづくりはふじのきさん家の協力によって出来たプログラムです。また去年も行っていた「ジャッキアップゲーム」、「家具転倒防止」、「洋服でたんかづくり」は東京土建の協力と案によって本格的な設営のもとで行う形になり、体験としてよりリアルで楽しいものとなりました。



●実際にジャッキを使ってカエルちゃんを救出！

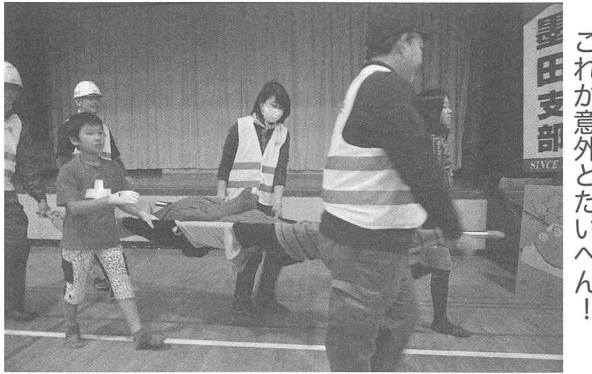
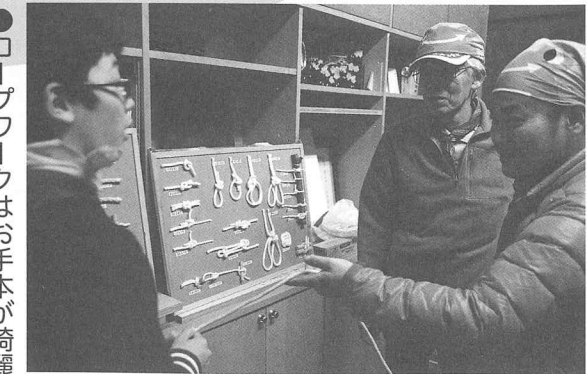


●洋服でたんかを作って…



●毎年恒例、最後に開催するオークションの時は今年も大賑わい！中には百ポイント以上出す強者もいました！

●ロープワークはお手本が綺麗すぎてビックリ！



●助けたカエルちゃんを運ぶこれが意外とたいへん！

## ～ これからに向けて ～

カエルキャラバンも無事終わった後、12月にスタッフで集まり今回を振り返り今後について話し合う機会などもありました。今回新しい取り組みが多い中で子どもたち皆に楽しんでもらえたことに安堵しつつ、さらに多くの人に楽しんでもらうためにより工夫が必要な部分があることなどを確認しました。

そして二年連続雨天での開催になってしまったので来年は晴れることを祈っています。

昨年十一月十五日(日)に、「一寺言問を防災のまちにする会」(一言会)の

◇開会の挨拶をする青木会長。

結成三十周年を記念して『防災まちづくり衆会2015』が

第一寺島小学校の体育館にて開催されました。

# 防災

# まちづくり

# フォーラム 衆会

# 2015



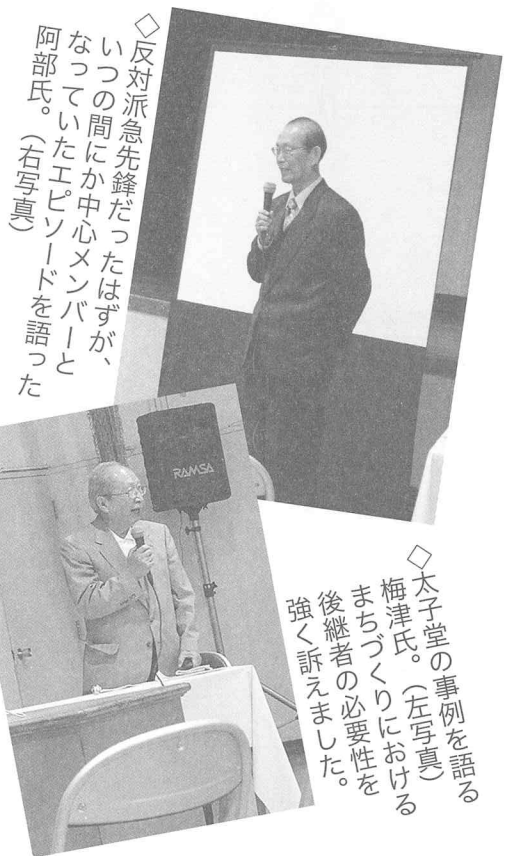
# レポート



◇山本氏(左側)と中島氏(右側)  
中島氏は地元と行政が求めるものは一致しないことなども指摘。今までと違う視点や方法を見つける必要性なども語りました。

当日、全体で二部構成となっており、第一部では「一言会とまちづくりの30年」として、一言会結成のあらましやその当時の背景などについて振り返りながら明治大学教授の山本俊哉氏をコーディネーターに、一言会理事の阿部洋一氏や太子堂二・三丁目地区まちづくり協議会元副会長の梅津政之輔氏をパネリストに、そして元・墨田区まちづくり事業推進部長の中島雄幸氏をコメントーターに迎え、語って頂きました。

第二部では「これからの地域と防災に必要な+α」というテーマのもとコーディネーターを東京工業大学教授の真野洋介氏にして頂き、カエルキャラバンを企画しているNPO法人プラス・アーツの理事長などを務める永田宏和氏や、大阪府此花区をベースにまちづくり・イベント企画運営を行っているPOS建築観察設計研究所代表の大川輝氏をパネリストに迎え、まちづくりを行う上でこれから地域に必要な+αの要素はどんなものがあるのかについての討議が行われました。



◇反対派急先鋒だったはずが、いつの間にか中心メンバーとなっていたエピソードを語った阿部氏。(右写真)

◇太子堂の事例を語る梅津氏。(左写真)  
まちづくりにおける後継者の必要性を強く訴えました。

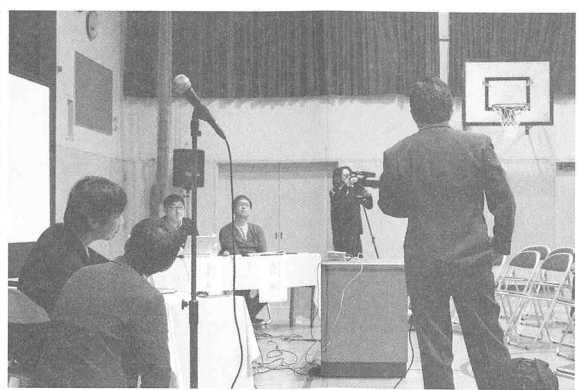
◇今回の開催にあたり大阪から駆けつけた森栗氏。

第一部ではまず山本氏が一言会結成当時に、同じ墨田区内の京島などでどのような動きがあったのか、そして一言会がプロジェクト実行方式になった所などを話しました。他にも、その後一言会が関わった向島博覧会や向島学会、路地普請といった三十年の活動のあらましを説明しました。次に阿部氏は路地尊発案当時の話や有季園の魅力などを語り、作られたものが地域住民で管理されていく大切さなどを説明しました。

その後、梅津氏が世田谷区の太子堂での三十五年に渡るまちづくりの歴史を民間主体のコミュニティ形成の視点などから説いた上で、継続的なまちづくりにおける次世代へのバトンタッチの必要性などを語りました。

また中島氏からは一言会に対し、今までと違った、良い意味で地域の力の集め方をしているとのコメントがありました。

最後に山本氏の一言会三十年の成果を一言で、という質問に対して、中島氏からは「このような三十周年フォーラムを行政主体でなく自分たちで出来ていること」、阿部氏からは「行政に頼りきらない一種の反骨精神が有季園に現れていること」など、地域住民主体のまちづくり精神が継続していることが成果である、と第一部の総括となるコメントがありました。



◇第二部、質疑にて最後に会場から「一言会はこれから継続に向けてどうすべきなのか?」という鋭い質問が飛び出し、課外活動的取り組みへの提案や、一言会の三層構造の維持の仕方など三者三様の回答がありました。また、これに対して第一部のコーディネーターであった山本氏も参戦し、白熱した意見交換となりました。

# 一言会では今こんなことに取り組んでいます！

## 災害に強いまちを目指して～建替え推進モデル検討～

墨田区東向島一丁目は木造住宅が密集する地域として重点整備地区になっているほか、地域危険度測定調査でも東京都の全町丁目の中でも18番目に総合危険度が高い地域になっています。そういった中で、地域に存在する災害時このままでは危険な空き家や非接道宅地の問題を解消すべく、一言会は墨田区と一緒に住民参加型のワークショップなどを開き、改善方法や進め方について検討を重ねています。

### 今年度

今年度は具体的な2つの検討エリアにおいて、実際にお住いの方や権利者の方々と話し合いながらより具体的な改善計画の共有・作成に取り組んでいます。今にも崩れそうな老朽空き家の問題解決や独居の高齢者も安心して住み続けられるまちづくりを目指しています。



○検討課題の一つとして上がっている、老朽した長屋且つ空き家の例。



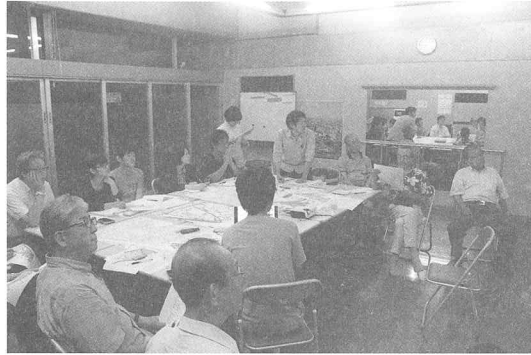
○今年度第一回のワークショップでは検討エリアの具体的な情報を共有しました。



○第二回では模型なども使い更に具体的な空間のイメージや改善案を話し合いました。

### 昨年度

昨年度は7回に渡ってまちづくり談義が行われ、地域防災や防犯上の検討課題などの地域情報の共有を行いました。またアンケート調査や個別訪問による意向調査を行いながら、検討課題をクリアする改善計画をモデルとして考えるエリアを絞り込みました。



○ワークショップで住民による地域の情報を抽出したり、イメージ共有をしました。



○防災点検まち歩きでは実際に地域に存在する空き家の現状などを確かめました。

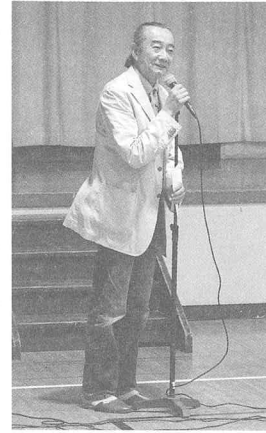


○江戸川区の篠崎へ視察に行き、行止まり道路の解消や共同建替え実例等を見学しました。

◇質疑に応じる永田氏（左）と大川氏（右）。



◇衆会の最後には一言会事務局長の佐原氏より「百年後を目指して今や三〇三〇年。ただ、今日のように大きな節目にこれだけ多くの人が集まったことに意義がある。」と締めくくり、三〇周年記念シンポジウムは閉会となりました。



◇第三部として交流会も一言集会所で執り行いました。

第二部では真野氏から地域防災をどう違う切り口でもって捉えるのかという点で、まず向島の近年の動きが語られました。また、行政としての大きな都市計画的視点ではなく、住民から見た小さな事象に重きを置くことで、若い世代を巻き込む新たなアプローチの契機となることが紹介されました。

永田氏は地域の人々を役割によって土・風・水の人と例えた上で、地域活性化でなく新しい取り組みの芽が出て育つための環境づくり「地域豊穡化」の必要性を神戸に置ける多様な先進事例と共に語りました。

また大川氏は大阪府の此花区における、空き家活用と若者移住のまちづくりの事例を報告しました。その中で、元々の住民の方達との交流や活動の情報発信をする場の必要性、また移住者に地域の暮らしのルールを伝えることの重要性を訴えました。

各自の事例・活動紹介が終わった後、三者と会場を踏まえて地域防災のまちづくりが次のステップに移行するために必要なきっかけや、地域で仕事が生まれ、多様な人が関わる方法について意見交換が行われました。



◇現在向島周辺が従来の地域特性から変わりつつある点を指摘する真野氏。一言会と地域の未来を考える上で、一言会が無意識に築いている普遍性などについても分析し語りました。

※「カエルキャラバンin寺島2015」と「まちづくり衆会2015」は『すみだの力応援基金助成』を受けて実施をしました。

## 有季園利用者の募集

向島有季園（向島5-1-35）

で、たのしい野菜づくり・花づくりを体験しませんか？

ご希望の方は、官製はがきに右の「応募券」を貼り、住所・氏名・電話番号を「ご記入の上、お申し込みください。応募者多数の場合は、2月27日（土）午後2時に「公開抽選会」を行います。



▲応募券

### 【利用期間】

平成28年4月1日  
平成30年3月31日

### 【利用料】

なし

### 【応募要件】

一寺言問地区（堤通一丁目、東向島一・三丁目、向島五丁目）にお住まいの方

### 【申し込み先】

☎03-371-0032

墨田区東向島一-1-115  
一言会会長 青木隆雄

### 【締め切り】

平成28年2月20日（必着）

- ※利用者は、次の事項を守って下さい
- ☆二年間、本人が責任を持って利用する
- ☆年二回開催の利用者会議に出席する
- ☆六月の園周の生け垣剪定会に参加する
- ☆毎年秋の収穫祭に参加する
- ☆園の近隣居住の方に迷惑をかけない

お問い合わせは 有季園担当理事 阿部

366210542